

2026年度 住宅地盤技士（調査部門） 正解および解説

問題	正解	解 説
1	4	設問4：粗粒土でなく細粒土が堆積する。
2	3	設問3：急流河川や海流の強い場所では礫や粗砂が堆積し、水流速が小さい内湾や湖沼ではシルトや粘性土が堆積する。
3	2	設問2：ロームは乱されると強度が著しく低下する「鋭敏性の高い土」であり、鋭敏比は高い。設問は逆の記述になっている。
4	1	設問1：粘性土のせん断抵抗角（内部摩擦角）は砂質土より小さい。粘性土の強度は主に粘着力によって支配されるため、せん断抵抗角が「砂より大きい」という記述は誤りである。
5	2	設問2：含水比 は、土粒子の質量に対する水の質量の割合である。
6	4	設問4：蛇行州の液状化の可能性は「大きい」とされる。
7	1	設問1：過圧密の説明である。
8	3	設問3：地点Cは、台地でなく堤間湿地に位置している。
9	2	設問1：粘性土が砂質土より早く安定するのは間違い。設問3：盛土面積も影響する。設問4：粒度の良い礫質土、砂質土、粘性土の順となる。
10	4	図は増積み擁壁ではなく、二段擁壁である
11	1	設問2：タンバーでなく振動コンパクターを用いて丁寧に締固める。設問3：散水を行ってよい。設問4：草木根・木片・アスファルト片などが含まれていないものを使用する。
12	1	設問1：事前に聞き取りを行って把握することは極めて重要である。
13	3	設問3：擁壁の外側へのはらみ出しは、地盤沈下と直接的な因果関係は低い。
14	1	設問2, 3：過大になる傾向がある。設問4：必ず過小とは言い切れない。
15	2	設問2： $q_u = 45W_{sw} + 0.75N_{sw} = 45 + 0.75 \times 60 = 90 \text{ kN/m}^2$
16	1	設問1：硬質地盤には適さない。
17	2	設問2：SPT サンプラー試料は乱されており、一軸圧縮試験や圧密試験の実施には不適。
18	3	設問3：盛土中に礫やガラが混入している場合、下位地盤は摩擦により下位地盤の評価が過大となることがあり、1 測点の自沈が正しく計測されている可能性がある。
19	4	設問1：改良深度以深に腐植土を残すことは避ける。設問2：自沈層の深さだけで改良深度を決定するのは適切でない。設問3：土以外の産業廃棄物等は改良対象土ではない。
20	3	設問3：改良下部地盤の支持力が不足するため不適である。
21	1	設問1：設計計算や室内配合試験などにより安全が確認された場合はこの限りではない。
22	4	設問4：設計変更の可能性があるため、施工者の判断で決定すべきでない。
23	3	設問3：軸回転数、掘進速度および引上速度の他、攪拌翼枚数が必要である。
24	2	設問1：支持する地盤が鋼管によって異なるので協議・検討事項である。
25	3	設問3：先端に拡底翼を有する鋼管は、周辺摩擦力を評価しない。
26	4	設問4のような規定はない。
27	1	パイル先端は閉塞する。
28	2	設問2：10 年間の瑕疵担保期間を短縮する特約は、消費者に不利であるため無効となる。
29	3	設問3：飛来・落下物や墜落の危険がある作業において、保護帽の着用義務を全面的に免除することは認められない。
30	4	設問4：異常がない場合でも記録を作成する義務がある。